

山口県日本海の貝類：
ドレッジで採集した漸深海底の貝類(Ⅳ)

杉 村 智 幸

「山口県の自然」第76号（2016年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

山口県日本海の貝類：ドレッジで採集した漸深海底の貝類 (IV)

杉村 智 幸¹⁾

はじめに

筆者は、ドレッジ型採泥器を用いて山口県日本海の漸深海底に生息する貝類を採集し、山口県新記録にあたる種を本誌において分類順に図示、記載中である(杉村, 2013-2015)。これまでに記載した貝類は、腹足綱の33科99種である。

今回は、腹足綱に次いで大きな分類群である二枚貝綱の貝類を図示、記載する。

本稿作成にあたり、田中勉氏(大阪府:故人)には貝類の同定に協力していただいた。木村昭一氏(三重県)には貴重な標本を提供していただいた。心よりお礼申し上げます。

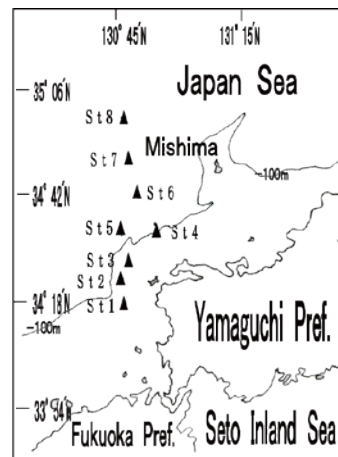


図1 調査地点

観察した貝類(承前)

山口県新記録の貝類21科36種を図示、記載する。そのうち日本海新記録にあたるものについては※印を付してある。分類順、学名はHigo *et al.*, (1999) に主に従った。

Class Bivalvia LINNAEUS, 1758 二枚貝綱

Family Mytilidae RAFINESQUE, 1815 イガイ科

※*Amygdalum soyoae* Habe, 1958 ユキゾラホトトギス (Pl.7, fig.115) St 3

備考: 1個体を観察したのみ。本種はこれまで相模湾以南の日本本土太平洋岸、および九州西岸から東シナ海にかけて記録されている(Higo *et al.*, 1999)。

※*Modiolus cecillii* (Philippi, 1847) (Pl.7, fig.116-117) St 3

備考: 殻は幅広く、やや薄質でよく膨らむ。後背縁の長さは中庸で赤褐色。腹縁は丸みを帯びる。殻内は青白色を呈す。殻表の後背部には短い殻毛があり、小型個体では砂泥の付着がみられる(fig.116)が、大型個体では殻毛の多くが失われ、ほぼ平滑になる(fig.117)。これらの形態的特徴は、Huber (2010) の図示、記載に一致しており、本種に同定した。観察した個体数は比較的多く、これまでも山口県日本海沖の漸深海底から底引き網によって、複数の個体を採集している(杉村未発表)。

本種は、最近、浜田(2008)によって*Modiolus* sp. ショウジョウヒバリ(大山, 1943)として図示されている。一方、本種は、*Modiolus metcalfei* コケガラスガイ(fig.118)に誤まって同定されることが少なくない。その要因は、これまでの主要な文献に同定の誤りがあるため

1) SUGIMURA, Tomoyuki 山口市立平川小学校 〒753-0831 山口市平井1675-2

と考えられる。例えば、波部（1961）がコケガラスガイとして図示した標本は、本種に酷似する *Modiolus philippinarum* ホソスジヒバリガイ（fig.119）であり（Huber, 2010）、黒田他（1971）がコケガラスガイとして図示した標本も、恐らく本種であると思われる。コケガラスガイは後背縁が長く突出し、腹縁が直線的となり、これらの形態的特徴はタイプ標本（Higo *et al.*, 2001 : 148, fig. B110）にも顕著で、本種とは異なる。ホソスジヒバリガイは本種よりもやや幅が広く箱形で、大成し殻が厚くなる。また、外洋に生息する本種に対して、コケガラスガイは瀬戸内海や有明海などの内湾の潮間帯泥地の礫等に付着しており（波部, 1971）、ホソスジヒバリガイは熱帯インド・西太平洋のサンゴ礁域の水深20mまでの藻場に生息している（奥谷他, 2000）など、生息環境も大きく異なっている。

Family Arcidae LAMARCK, 1809 フネガイ科

※ *Barbatia (Ustularca) tamikoe* Sakurai, 1969 オトヒメハナエガイ (Pl.7, fig.120) St 4

備考：3個体を観察したのみ。本種はこれまで伊豆諸島以南の日本本土太平洋岸、および九州西岸から沖縄近海にかけて記録されている（Higo *et al.*, 1999）。

Samacar strabo (Hedley, 1915) ミノエガイ (Pl.7, fig.121) St 3

備考：殻皮のはがれたやや古い死殻1個体を観察したのみ。

Family Pinnidae LEACH, 1819 ハボウキガイ科

Atrina (Servatrina) kinoshitai Habe, 1953 ミノタイラギ (Pl.7, fig.122) St 6

備考：死殻1個体を観察したのみ。

Family Limidae RAFINESQUE, 1815 ミノガイ科

※ *Ctenoides suavis* Masahito, Kuroda & Habe in Kuroda *et al.*, 1971 テンニンハネガイ (Pl.7, fig.123) St 3

備考：死殻1個体を観察したのみであるが、これまでも、下関市角島近海から立て網によって1個体を採集している（杉村未発表）。本種はこれまで相模湾以南の日本本土太平洋岸、および九州西岸から記録されている（Higo *et al.*, 1999）。

Limatula (Limatula) nippona Habe, 1960 コナユキバネ (Pl.7, fig.124) St 3

備考：死殻1個体を観察したのみ。

Family Spondylidae GRAY, 1826 ウミギク科

※ *Spondylus (Spondylus) anacanthus* Mawe, 1823 オオナデシコ (Pl.7, fig.125-126) St 7

備考：死殻3個体を観察したのみ。本種はこれまで伊豆諸島以南の日本本土太平洋岸、および九州西岸から沖縄近海にかけて記録されている（Higo *et al.*, 1999）。

Family Propeamussiidae ABBOTT, 1954 ワタゾコツキヒ科

※ *Cyclopecten nakaii* Okutani, 1962 ナカイウロコハリナデシコ (Pl.7, fig.127) St 6

備考：死殻3個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島、相模湾、伊豆諸島、および潮岬沖などの本州中部の深海底から記録されている（Higo *et al.*, 1999）。

Family Lucinidae FLEMING, 1828 ツキガイ科

Pillucina (sydlorina) yamakawai (Yokoyama, 1920) アラウメノハナ (Pl.7, fig.128) St 2

備考：2個体を観察したのみ。

Gonimyrtea (Alucinoma) soyoae (Habe,1958) キヌハダツキガイモドキ (Pl.7,fig.129) St 4

備 考：複数の死殻を観察した。

Family Thyasiridae DALL,1900 ハナシガイ科

Thyasira (Philis) cumingi Fischer,1861 オトギハナシガイ (Pl.7,fig.130) St 6

備 考：複数の死殻を観察した。

Family Ungulinidae H.&A.ADAMS,1857 フタバシラガイ科

Cycladicama semiasperoides (Nomura,1932) ヒラシオガマ (Pl.7,fig.131) St 6

備 考：死殻1個体を観察したのみ。

Diplodonta gouldi Yokoyama,1920 フタバシラガイ (Pl.7,fig.132) St 4

備 考：死殻2個体を観察したのみ。

Family Mactridae LAMARCK,1809 バカガイ科

※*Mactra (Telemactra) iridescens* Kuroda&Habe in Habe,1958 ニジミナトガイ (Pl.7,fig.133) St 3

備 考：2個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島以南の日本本土太平洋岸、九州西岸から東シナ海、およびオーストラリアから記録されている (Higo *et al.*,1999)。

Family Solenidae LAMARCK,1809 マテガイ科

Solen (Solenarius) luzonicus Dunker,1861 ヒナマテ (Pl.7,fig.134) St 1

備 考：1個体を観察したのみ。

Family Tellinidae WILKES,1810 ニッコウガイ科

※*Bathytellina citrocarnea* Kuroda&Habe in Habe,1958 ワダツミザクラ (Pl.7,fig.135) St 2

備 考：3個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島以南の日本本土太平洋岸、および九州西岸から記録されている (Higo *et al.*,1999)。

Family Semelidae STOLICZKA,1870 アサジガイ科

Leptomya cuspidariaeformis Habe,1952 コチヨウシャクシ (Pl.8,fig.136) St 1

備 考：2個体を観察したのみ。

Abra fujitai Habe,1958 リュウグウザクラ (Pl.8,fig.137) St 6

備 考：複数の死殻を観察した。

Abra soyoae Habe,1958 シラトリリュウグウザクラ (Pl.8,fig.138) St 6

備 考：複数の死殻を観察した。

Abra kyurokusimana (Nomura & Hatai,1940) ツボミリュウグウザクラ (Pl.8,fig.139) St 5

備 考：1個体を観察したのみ。前種に似るが、殻頂は小さく高い。前縁の膨らみも強い。

Family Corbulidae LAMARCK,1818 シコロクチベニガイ科

Anisocorbula nipponica Habe,1961 イナカクチベニ (Pl.8,fig.140) St 3

備 考：3個体を観察したのみ。

Anisocorbula sp. (Pl.8,fig.141) St 3

備 考：3個体を観察したのみ。前種に似るが、輪肋がより太く顕著で、殻頂から後腹隅に走る稜が高く末端が尖る。殻頂から複数の放射色帯が走る。これらの形態的特徴は、*Anisocorbula*

modesuta ヒナクチベニに、ほぼ一致している。しかし、本種の放射色帯はやや不明瞭で、本数が少なくまばらである。生息深度も本種のほうがかなり深い。Huber (2010) が図示した *Corbula taitensis* メオトガイは、これらの点でも一致しているが、国内では相模湾から記録されているのみ (Higo *et al.*,1999) で、情報不足のため、比較検討することができなかった。そのため本種は、一先ず本属の一員としておく。

Anisocorbula tosana Yokoyama,1929 クモリクチベニ (Pl.8,fig.142) St 3

備 考：1個体を観察したのみ。

Family Periplomatidae DALL,1895 リュウグウハゴロモガイ科

※*Offadesma* sp. (Pl.8,fig.143-144) St 5

備 考：1個体を観察したのみ。殻はたいへん薄く半透明で平滑。殻の膨らみはやや強く、後方は細まって嘴状となる。両端は狭く開き、ほぼ等殻である。殻頂は殻のほぼ中央部にある。弾帯受けは殻内に突き出している。一方、本科の貝類には、殻頂部分の裂け目が特有であるが、本種では肉眼でははっきりと認められない (fig.144)。これ以外では、本種は、波部 (1977) が記載した本科、本属の形態的特徴を備えている。

本科の貝類は、本国からは僅かに3属4種が記録されているのみ (Higo *et al.*,1999) で、いずれの種も発見例の少ない希少種である。本種はそれらに該当していないため、一先ず本属の一員としておく。なお、本科の貝類は、本県から初めての記録となる。

Family Thraciidae STOLICZKA,1870 スエモノガイ科

Asthenothaerus sematana (Yokoyama,1922) セマタコスエモノガイ (Pl.8,fig.145) St 3

備 考：1個体を観察したのみ。

※*Thracidora japonica* Habe,1952 ワタゾコスエモノガイ (Pl.8,fig.146-147) St 3

備 考：複数の死殻を観察した。本種はこれまで相模湾以南の日本本土太平洋岸から記録されている (Higo *et al.*,1999)。

Family Lyonsiidae FISCHER,1887 サザナミガイ科

Lyonsia kawamurai Habe,1952 カワムラサザナミガイ (Pl.8,fig.148) St 3

備 考：1個体を観察したのみ。

Family Myochamidae BRONN,1862 ミツカドカタビラガイ科

Myodoropsis dissimilis (Habe,1960) ヒロヤマザキスエモノガイ (Pl.8,fig.149) St 3

備 考：死殻1個体を観察したのみ。

Family Verticordiidae STOLICZA,1871 オトヒメゴコロガイ科

※*Haliris (Setaliris) makiyamai* (Habe in Kuroda,1952) ヒシオトヒメゴコロ (Pl.8,fig.150) St 2

備 考：死殻3個体を観察したのみ。本種はこれまで伊豆諸島西方、熊野灘、および九州西岸から記録されている。

Family Poromyidae DALL,1886 スナメガイ科

Cetoconcha japonica Habe,1952 ダイオウスナメガイ (Pl.8,fig.151) St 4

備 考：2個体を観察したのみ。

Family Cuspidariidae DALL,1886 シャクシガイ科

※*Cuspidaria (Cuspidaria) chinensis* (Gray in Griffith & Pidgeon,1834) サザナミシャクシ (Pl.8,fig.152) St 6
備 考：死殻 1 個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島以南の日本本土太平洋岸、および九州
西岸から東シナ海にかけて記録されている。

Cuspidaria (Cuspidaria) suganumai Nomura,1940 エナガシャクシガイ (Pl.8,fig.153) St 6
備 考：死殻 2 個体を観察したのみ。

※*Pseudoneaera semipellucida* (kuroda,1948) シャクシガイモドキ (Pl.8,fig.154) St 2
備 考：2 個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島以南の日本本土太平洋岸、九州西岸から東
シナ海、および黄海から記録されている。

※*Rengea caduca* (E.A.Smith,1894) レンゲシャクシ (Pl.8,fig.155) St 2
備 考：死殻 2 個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島以南の熱帯インド太平洋岸からオース
トラリア、および南西アフリカから記録されている。

Plectodon ligulus (Yokoyama,1922) ヒナノシャクシ (Pl.8,fig.156) St 3
備 考：死殻 2 個体を観察したのみ。

図版説明

Pl.7 : 115. *Amygdalum soyoae* ユキゾラホトトギス 4.2×7.3mm 116. *Modiolus cecillii* 20.6×32.2mm
117. *Modiolus cecillii* 24.0×47.6mm(山口県日本海沖産) 118. *Modiolus metcalfei* コケガラスガイ 26.8
×42.5mm(山口県周南市桑原産) 119. *Modiolus philippinarum* ホソスジヒバリガイ 48.8×76.0mm(沖縄
市泡瀬干潟産：木村昭一氏採集) 120. *Barbatia(Ustularca)tamikoae* オトヒメハナエガイ 6.7×12.5mm
121. *Samacar strabo* ミノエガイ 5.5×10.5mm 122. *Atrina(Servatrina)kinoshitai* ミノタイラギ 16.9×46.4mm
123. *Ctenoides suavis Masahito* テンニンハネガイ 16.3×12.5mm 124. *Limaria nippona* コナユキバネ 5.3
×3.5mm 125. *Spondylus(Spondylus)anacanthus* オオナデシコ 23.1×21.6mm 126. *Spondylus(Spondylus)*
anacanthus オオナデシコ 17.5×14.5mm 127. *Cyclopecten nakaii* ナカイウロコハリナデシコ 8.6×8.9mm
128. *Pillucina(sydlorina)yamakawai* アラウメノハナ 4.5×4.9mm 129. *Gonimyrtea(Alucinoma)soyoae*
キヌハダツキガイモドキ 9.7×10.2mm 130. *Thyasira(Philis)cumingi* オトギハナシガイ 9.2×8.7mm
131. *Cycladicama semiasperoides* ヒラシオガマ 16.5×19.4mm 132. *Diplodonta gouldi* フタバシラガイ
8.3×9.5mm 133. *Maetra(Telemactra)iridescens* ニジミナトガイ 10.3×14.2mm 134. *Solen(Solenarius)*
luzonicus ヒナマテ 6.2×31.3mm 135. *Bathytellina citrocarnea* ワダツミザクラ 6.8×10.2mm
Pl.8 : 136. *Leptomya cuspidariaeformis* コチヨウシャクシ 9.2×14.1mm 137. *Abra fujitai* リュウグウザク
ラ 6.2×9.8mm 138. *Abra soyoae* シラトリリュウグウザクラ 11.0×13.4mm 139. *Abra kyurokusimana* ツボミ
リュウグウザクラ 9.1×10.5mm 140. *Anisocorbula nipponica* イナカクチベニ 6.7×10.1mm 141. *Anisocorbula*
s p. 7.9×11.4mm 142. *Anisocorbula tosana* クモリクチベニ 4.1×6.7mm 143. *Offadesma* sp. 10.1×
14.4mm 144. *Offadesma* sp.(殻頂部) 145. *Asthenothaerus sematana* セマタコスエモノガイ 4.7×5.4mm
146. *Thracidora japonica* ワタゾコスエモノガイ 5.7×9.2mm 147. *Thracidora japonica* ワタゾコスエモ
ノガイ 5.2×7.1mm 148. *Lyonsia kawamurai* カワムラサザナミガイ 6.4×8.8mm 149. *Myodropsis dissimilis*

ヒロヤマザキスエモノガイ 4.1×8.0mm 150. *Haliris(Setaliris)makiyamai* ヒシオトヒメゴコロ 5.2×5.8mm
151. *Cetoconcha japonica* ダイオウスナメガイ 12.6×17.2mm 152. *Cuspidaria(Cuspidaria)chinensis* サ
ザナミシヤクシ 11.2×19.8mm 153. *Cuspidaria(Cuspidaria)suganumai* エナガシヤクシガイ 11.2×23.2mm
154. *Pseudoneaera semipellucida* シヤクシガイモドキ 3.4×4.0mm 155. *Rengea caduca* レンゲシヤクシ
10.7×19.7mm 156. *Plectodon ligulus* ヒナノシヤクシ 2.5×4.8mm

引用文献

- 波部忠重 (1961) 続原色日本貝類図鑑. 240pp.保育社
- 波部忠重 (1977) 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/掘足綱. xii + 372pp. 図鑑の北隆館
- 浜田 保 (2008) 大分県産貝類目録・図譜. 136pp.自刊
- Higo,S., Callomon,P. & Gotô,Y. (1999) Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-Bearing Mollusca of Japan.749pp.Elle Scientific Publicatoins,Yao
- Higo,S., Callomon,P.& Gotô,Y. (2001) Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-Bearing Mollusca of Japan. Gastropoda,Bivalvia,Polplacophora,Scaphopoda.Type Figures.208pp. Elle Scientific Publicatoins,Yao
- Huber,M (2010) Compendium of Bivalves. 901pp.Conckbooks,Hackenheim
- 黒田徳米・波部忠重・大山桂 (1971) 相模湾産貝類. xvi + [iii] +741 [和文] +489 [英文] +51pp. 121pls. 丸善
- 奥谷喬司 (2000) 日本近海産貝類図鑑. 1173pp.東海大学出版会
- 杉村智幸 (2013) 山口県日本海の貝類：ドレッジで採集した漸深海底の貝類 (I). 山口県の自然 73 : 17-24 山口県立山口博物館.
- 杉村智幸 (2014) 山口県日本海の貝類：ドレッジで採集した漸深海底の貝類 (II). 山口県の自然 74 : 37-44. 山口県立山口博物館.
- 杉村智幸 (2015) 山口県日本海の貝類：ドレッジで採集した漸深海底の貝類 (III). 山口県の自然 75 : 23-30. 山口県立山口博物館.



